

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①ユニバーサルデザインの授業を中心とした「共通授業コンセプト」の実践を進める。②主体的・対話的で深い学びの研究・実践を進める。	①「共通授業コンセプト」に沿った授業評価を実施し、生徒の視点を大切に実践を行うことができた。②小中合同研修会等で少人数での学び合いの重要性を共有し、ペアやグループの活動を中心とした主体的・対話的で深い学びの場を増やすことができた。	A
豊かな心	①「共通授業コンセプト」の実践を通して、だれもが安心して参加でき、自尊感情を高めることのできる授業を目指す。②学校行事や小中合同の行事等を工夫し、縦割り活動を取り入れ、思いやりや社会性を育成する。③学校行事や他の教科等との関連性を高めた道徳科の授業を行う。	①ペアやグループの活動が増え、安心して参加できる授業づくりが進んだが、自尊感情の高まりがまだ十分ではない。②縦割り活動の機会は増えたので、より社会性育成に寄与できるようにしたい。③学校行事や他の教科等との関連性を意識して、道徳科の授業を行った。	B
健やかな体	①一人ひとりの健康目標を設定し、月ごとに振り返りを行うことにより行動意欲の向上を図る。②全校生徒参加の学校保健委員会で、今日的な健康課題を扱うことで健康に対する意識を高める。③体力テストを年2回実施することで、体力についての意識を高め「体力づくり」に取り組む。	①月ごとに振り返りを行ったが、健康目標への意識づけが十分ではなかった。②今日的な健康課題をテーマにし、健康に対する意識が向上した。③体力テストを年2回実施し、授業で継続的に「体力づくり」に取り組むことで、体力についての意識が高まりつつある。	B
特別支援教育	①生徒一人ひとりをよく理解し、よさ(強み)を生かし、困難さ(弱み)に応じた指導・支援をしていく。②「共通授業コンセプト」の定着など、ユニバーサルデザインの指導方法の研究・実践を進める。	①特別支援教室での支援体制が確立され、個々に応じた指導が充実した。今後は、さらに全生徒の一人ひとりのよさを生かし、困難さに寄り添った指導・支援をしていきたい。②「共通授業コンセプト」が教職員に定着し、授業のユニバーサルデザイン化が進んだ。	A
特別活動	①様々な話し合い活動や集団活動を通して、自他ともに大切にすることを養い、集団への所属感や連帯感を深める。②生徒の出番や役割を多く創出し、その活動が承認されることで自己有用感を感じ、自尊感情を高められる活動を意図的に計画する。	①様々な場面で話し合い活動や集団活動を設定し、生徒同士が関わり合う機会が増えたことで、集団への所属感や連帯感の深まりがみられた。②文化発表会の見直し等の意図的な計画を行い、生徒の出番や役割を多く創出することができた。	A
地域連携・学校運営協議会	①学校便り、学年便り等を通して、生徒の活動の様子を効果的に保護者へ知らせる。②小中合同の学校運営協議会等を通して、様々な立場の人の意見を聞き、より良い学校と地域社会を作るといった目標を保護者・地域と共有し、小学校と共に保護者・地域と協働した教育活動を行う。	①学校便りで学校の重点取組について発信し、学年便りでは生徒の活動の様子を中心に発信した。今後学校便りと学年便りを区別しながら、効果的な発信を行いたい。②様々な立場の人の意見を聞くことのできる体制づくりが進み、活発な意見交換が行われた。	A
いじめへの対応	①「児童生徒指導のスタンダード」の理念を徹底し、自尊感情や社会性の育成に努めるとともに生徒一人ひとりに居場所と役割をつくる指導を行う。②行事や特別活動等を中心とした、親和的な学級集団、学年集団、生徒集団づくりを進める。	①授業や行事を中心に生徒一人ひとりが活躍できる場面を増やし、自尊感情や自己有用感を高めることができた。②行事や特別活動において、学級での活動や縦割り活動を積極的に取り入れ、生徒が様々な集団での活動を親和的に行う様子が見られた。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチーム研修を通して、経験の浅い教職員の学習指導や生徒指導等の実践力を高める。②主幹・主任会で、学校の様々な課題について全体的な視野で解決策を考えることで、ミドルリーダーとしての力を向上させる。③月間行事予定や学校行事等の立案をする際、教職員の勤務体制が過重とならないように計画する。	①行事に向けての指導方法を中心に年3回の研修を実施し、経験の浅い教職員の指導実践につなげた。②学校の諸課題を共有し、解決策を主体的に検討する機会を増やしたことで、ミドルリーダーの学校経営参画が進んだ。③事務処理日の設定や行事の時間短縮等により、時間外勤務の縮減を図った。	A
ブロック内評価後の気づき	・児童生徒アンケートの結果によると、相談のしやすさ、児童生徒に寄り添った指導についての評価が比較的低かった。この結果を重く受け止め、今後に生かしていきたい。 ・自己有用感やコミュニケーション力を育てる教育活動を充実させた効果が現れている。 ・保護者、地域への情報発信を工夫し、学校への理解が深まったことがアンケート結果で見取れる。 ・地域の活動を土台にして生まれた小中合同地域防災訓練を発展させ、来年度から「地域・防災科」として、小6～中3までの一貫カリキュラムを編成する。より内容を充実させていくことが必要である。		
学校関係者評価	・小中合同の「共通授業コンセプト」に基づいて様々な授業改善の努力をしている。旭中と中沢小の教職員が一体となって、小中9年間で子どもを育てるという姿勢が見られ、大きな成果を上げている。 ・自己有用感を育てることや達成感を味わわせることに、小中ともに重点的に取り組んでおり、現代の子どもにとって重要な教育活動であると感じる。今後は、自分に対して否定的な意見も自らのステップアップにつなげるなど、たくましく生きていく力も伸ばせるとよい。 ・教員の働き方改革については、国の求めている目標と現実との乖離が大きく、努力が必要である。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①「共通授業コンセプト」に沿った授業評価を実施し、評価結果を活用して教員同士の相互研さんを行うことで授業改善につなげる。②授業において、グループやペアによる活動の中で、様々な考えを互いに聞き合う機会をつくり、主体的・対話的で深い学びの実践を進める。	①「共通授業コンセプト」に沿った授業評価を継続して実施した。また、教員相互の授業見学を計画したが、相互研さんによる授業改善については改善の余地がある。②コロナ禍でも感染症対策の工夫をしながら、互いの考えを聞き合う機会を大切にすることができた。	B
豊かな心	①「児童生徒指導のスタンダード」の理念を徹底し、人とのかかわりの中で居場所や役割を実感させ自己有用感を育成する。②道徳科の年間指導計画において各教科との関連を明確化し、他の教科と連携した人権集会の実施など、教科横断的な教育活動を行う。	①教職員が生徒の不安や悩みに寄り添い、居場所づくりを行うなど「児童生徒指導のスタンダード」の理念に近い指導が徐々にできてきている。②道徳科の年間指導計画に沿って、地域防災訓練や人権集会等で教科横断的な教育活動を行うことができた。	B
健やかな体	①「体と心の健康カード」を使って健康目標に対する意識づけを工夫し、健康づくりに対する生徒の意欲を高める。②体力テストの分析を行ったうえで、市の平均を下回っている項目の改善に向けて、継続的に体力づくりを行う。	①「体と心の健康カード」配付時に保健委員からメッセージを発信し、意識づけを工夫したが、健康づくりへの意欲の高まりはあまり見られなかった。②実施可能な種目のみ体力テストを行い、集計・分析を行ったが、分析結果に基づき体力づくりは十分にできなかった。	B
特別支援教育	①教職員が連携しながら共感的生徒理解を深め、生徒一人ひとりのよさ(強み)を生かすことを大切に支援を実践する。②特別支援教室等活用事業モデル校として、支援のしくみづくりを進め、特別支援教室を使用する生徒が自尊感情を高められるよう取り組む。	①各々の教職員が生徒一人ひとりのよさ(強み)を大切に指導・支援することができた。教職員間での生徒のよさ(強み)の共有をさらに進めたい。②特別支援教室等活用事業によって、特別支援教室の環境整備が進み、学校全体の特別支援教育の体制が充実した。	A
特別活動	①行事等での集団活動や話し合い活動を通して、生徒同士の関わり合いを深め、多様な人間関係を築く力、よりよい自分を発揮する力を育てる。②様々な集団活動において、教職員がねらいを共有して計画、指導を行う。	①コロナ禍でも学年ごとで工夫し、学年レクやグループワークトレーニング等を行い、生徒同士の関わり合いを深める機会を設定できた。②集団活動の計画時に、担当は例年以上に丁寧にねらいの確認を行ったが、教職員全体でのねらいの共有は不十分であった。	B
地域連携・学校運営協議会	①地域・防災科を創設し、地域防災訓練や地域の落ち葉掃きを授業に組み込むなど、地域に開かれた教育課程の編成を進める。②学校運営協議会の内容を定期的に学校便り等で発信し、保護者・地域との情報共有を推進し、より良い学校と地域社会を作るといった目標の共有化を進める。	①旭中ブロック独自の教科として地域・防災科を立ち上げ、地域防災訓練だけでなく、防災学習や地域の落ち葉掃きを授業として行うことができた。②運営協議会の発信は十分ではなかったが、コロナ禍でも学校が大切にしていることは継続的に発信することができた。	A
いじめへの対応	①生徒一人ひとりが役割をもち、仲間から認められる機会を意図的につくることで、いじめの未然防止につなげる。②行事、特別活動や授業などの様々な場面で、生徒が見通しをもち、居場所や役割を実感できるようにすることで、親和的な集団づくりを進める。	①行事や学級活動で多くの生徒が活躍する場面が見られ、授業でも発表・発言を仲間から認められる機会が頻繁にあった。②コロナ禍で不安を感じる場面が多い中、感染症の学習や情報発信を充実させ、学校が差別や偏見のない安心できる居場所となるよう努めた。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチーム研修による経験の浅い教職員の実践力向上と主幹・主任会によるミドルリーダーの学校経営参画を柱に人材育成に取り組む。②これまでの教職員の業務を見直し精選を図るとともに、時間割を工夫して放課後に行っていた会議の一部を授業時間内に行うことができるように計画し、教職員の時間外勤務の縮減を図る。	①メンターチーム研修を3回実施し、様々な指導の実践方法を確認した。また、主幹・主任会で感染症への対応を主体的に考えるなど、ミドルリーダーの学校経営参画が進んだ。②業務内容や業務分担を見直し、業務の効率化を進めながら、「教職員の働き方改革プラン」に基づいて時間外勤務のさらなる縮減を図る。	A
ブロック内評価後の気づき	・コロナ禍で様々な制約のある中、行事や授業のねらいを大切にしながら、実施方法や実施時期を見直し、「今できること」を「どのように」実現するかを意識して取り組むことができています。 ・中沢小・旭中ともに、「共通授業コンセプト」に沿った授業づくりが確実に定着している。 ・コロナ禍でも、地域と協働した地域・防災科の取組を進められたことは、小ブロックの強みである。しかし、中沢小に比べると、旭中は地域と交流する場面が少ないことも見えてきた。		
学校関係者評価	・学校運営協議会委員に学校の現状を書面でお伝えした。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①「共通授業コンセプト」が定着するよう、授業評価や教員相互の授業見学を実施し、教員同士の相互研さんを充実させる。②「学校の新しい生活様式」に対応しながら、従来型の対話活動だけでなく、閲覧・掲示やICTも効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びを実践する。	①教員相互の授業見学は実施できなかったが、授業評価や教員同士でオンライン授業の相互研さんを行うことで、「共通授業コンセプト」の定着を図った。②GIGA端末の導入で、生徒が主体的に学ぶ機会が増えたが、コロナ禍での対話的な学びには課題が残った。	B
豊かな心	①一人ひとりの居場所づくり、自己有用感や自尊感情の育成」の基本理念を徹底するため、定期的に「児童生徒指導のスタンダード」を確認し、指導の改善を図る。②道徳科と他教科をより関連付けた年間計画を立て、各教科での実施状況を確認することで、教育活動の質の向上を図る。	①長期休業前後など定期的に「児童生徒指導のスタンダード」を確認したが、全教職員が基本理念を徹底するまでには至っていない。②年度末に実施状況を確認した結果、各教科で道徳科の内容を意識した授業は行っているが、教科横断的な取組は十分ではなかった。	B
健やかな体	①月ごとに「体と心の健康カード」を使って、健康生活の振り返りを行い、基本的な生活習慣の定着を図り、健康で安全な生活を実感できるように取り組む。②体力テストの結果を活用しながら、生徒が個々の課題意識をもって体力づくりを行うように指導する。	①月初めに健康生活の振り返りを実施し、保健委員会から情報発信を行ったことで、生徒の健康で安全な生活に対する意識の高まりが見られた。②体力テストの結果を受けて、生徒が自身の体力の課題を考える機会をつくった。体力づくりの課題の確保に課題が残った。	B
特別支援教育	①教職員が生徒一人ひとりのよさ(強み)を共有し、共感的理解をもって生徒理解を深め、個に応じた指導・支援を実践する。②特別支援教室の意義を全教職員で共通理解し、特別支援教室の多様な活用方法を検討することで、アダプティブな支援体制づくりを進める。	①生徒への共感的理解を深め、個に応じた指導・支援が行われつつある。今後は、より長期的に生徒に寄り添った支援を実践していきたい。②校内研修で特別支援教室の意義やルールを丁寧に確認することができた。その結果、個別最適な支援を行う体制が整ってきた。	A
特別活動	①行事等での集団活動や話し合い活動において、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を大切に指導を行う。②学校教育目標と生徒会活動のつながりを示した構造図を作成し、様々な集団活動において、教職員がねらいを共有して指導を行えるよう取り組む。	①全校レクや生徒交流用の掲示板、目安箱等の取組を通して、「人間関係形成」、「自己実現」の視点を大切に指導を行うことができた。②構造図を作成したことで、目標のつながりが明確になり、教職員や生徒が以前よりもねらいを意識して活動を行うことができた。	A
地域連携・学校運営協議会	①地域の想いを大切に教育活動の実現を目指す。②地域・防災科と他の教科をより関連付けられるようカリキュラム・マネジメントを行う。③生徒の自己有用感を高めるために、学校運営協議会や保護者・地域と協働した活動等把握した地域の大人の声を生徒に届ける機会をつくる。	①地域・防災科に継続して取り組めるように、指導案・ワークシートを完成することができたが、他教科との関連付けはあまり進められていない。②地域・防災科の中で、地域の広報誌を資料として活用するなど、生徒に地域の声を届ける機会をつくった。	B
いじめへの対応	①行事、特別活動や授業などの様々な場面で一人ひとりの特性を生かし、仲間から認められる機会を意図的につくり、生徒一人ひとりの居場所があり、役割を実感できるようにすることで、親和的な集団づくりを進める。	①行事や授業などの場面で、生徒一人ひとりの特性を生かしながら、居場所や役割を実感できるように取り組むことができた。コロナ禍においても親和的な集団づくりが大切であるという意識を教職員間で共有し、さらに高めていきたい。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①経験の浅い教職員が主体的に実践力を高められるようメンターチーム研修を行う。②主幹・主任会で、ミドルリーダーが学校経営への理解を深め、学校運営に様々な意見具申を行う。③業務内容や業務分担を見直し、業務の効率化を進めながら、「教職員の働き方改革プラン」に基づいて時間外勤務のさらなる縮減を図る。	①経験の浅い教職員の主体的に学ぶ姿勢を伸ばすために、事前に希望を把握してから研修を行った。②コロナ禍の対応や行事等の変更について、積極的に意見具申することができた。③毎月、働き方改革プランに沿ったデータを共有し、特に退勤時間への意識を高めることで、時間外勤務を縮減することができた。	A
ブロック内評価後の気づき	・独自教科、地域・防災科の小中合同研究授業を中学校で行った。小中ブロックでそれぞれつくってきた独自教科の授業について、一定の共通理解を進めることができた。今後、さらに小中のつながりを意識した授業内容になるように、小中で共通理解をもちながらカリキュラム・マネジメントをしていく必要性に気がつくことができた。 ・コロナ禍においても、小中合同地域防災訓練や小中交流日を実施することができた。内容は、感染症対策をしながら縮小されたが、継続することの意義を確かめることができた。		
学校関係者評価	・学校運営協議会委員に学校の現状を書面でお伝えした。		

**中期取組目標振り返り**  
文化発表会を個人の発表から集団活動の発表の場に変更したことが、生徒、保護者ともに好評であり、行事や授業で、親和的な集団づくりや生徒の所属感・連帯感を深めることに重点を置いて取り組んできた成果が出ている。また、「共通授業コンセプト」に沿った授業が定着しつつあり、授業でグループでの学習を多く取り入れるなど、対話的で深い学びの実践が進んでいる。学校便り等で生徒の活動の様子や学校の取組がわかりやすく発信されていると感じている保護者が多いので、今後も情報発信を大切にしながら、地域、保護者とともに教育活動を充実させていきたい。

**中期取組目標振り返り**  
教員相互の授業見学を計画したが、教員が多忙であったため不完全であった。来年度は、時間確保の方法や実施時期を工夫して推進していきたい。また、コロナ禍であっても、授業中に互いの考えを聞き合う機会を、工夫してつくりだしたが、今後はICTの活用なども試みていく必要がある。行事等は、感染症対策をしながら、規模や方法を変えて行ってきたが、来年度はさらに、行事の目的をしっかりと捉えた上で計画し、感染状況に応じて内容や方法を工夫して実施していきたい。本年度から立ち上げた地域・防災科では、コロナ禍であっても、最初の一歩を進めることができた。

**中期取組目標振り返り**  
今年度、独自教科「地域・防災科」のカリキュラム・マネジメントを進め、独自教科の継続的な指導の見通しがついたことは大きな成果であった。小学校の指導との関連性について課題が残ったので、さらにカリキュラム・マネジメントを進めながら改善していきたい。  
・人とのかかわりを伴う行事や地域との協働活動については、コロナ禍であったが、感染症対策を十分にして、できる範囲で実施してきた。活動の目的をしっかりと捉えて工夫したので、それなりの効果があったと感じる。